

# ブロッコリー黒すす病情報第1号

令和7年7月16日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 黒すす病の発生に注意しましょう！

### 1 発生状況

令和6年11月～12月及び令和7年5月に東三河地域のブロッコリーで *Alternaria brassicicola* による黒すす病及び *Alternaria japonica* (徳島県から黒すす病の病原として提案中) による黒すす症状が多発しました。令和6年度に実施した薬剤感受性検定の結果では、病斑から分離した菌のうち *Alternaria brassicicola* では SDHI 剤、*Alternaria japonica* では SDHI 剤及び QoI 剤の感受性が低い菌株が多く存在しました。

黒すす病は一度発生が広がると防除が困難であり、前作発生があった地域では今作も発生が予想されるため注意が必要です。

### 2 本病の生態等

本病の病原菌は糸状菌であり、*Alternaria brassicicola* 及び *Alternaria brassicae* が該当します。また、令和7年3月に新たに徳島県から *Alternaria japonica* が学会で病原追加として提案されています。これらは広くアブラナ科野菜（キャベツ\*<sup>1</sup>、カリフラワー\*<sup>1</sup>、コマツナ\*<sup>1</sup>、ダイコン\*<sup>2</sup>、ハクサイ\*<sup>2</sup>等）に対して病原性を示します。

発病適温は20～25℃付近とされ、葉に形成された病斑上の孢子により空気伝染します。そのため、葉の病斑から花蕾へ伝染するとともに、降雨や強風により発生が助長されます。また病原菌は植物残渣（被害残渣）に残存し、次作の伝染源になります。

病徴は、葉では、黒色の小斑点を生じた後、病斑が拡大して黒褐色の斑点から輪紋となり、周辺は黄変します（図1）。花蕾では、黒色の小斑点を生じた後に腐敗するとともに、黒色のかびが密集します（図2）。

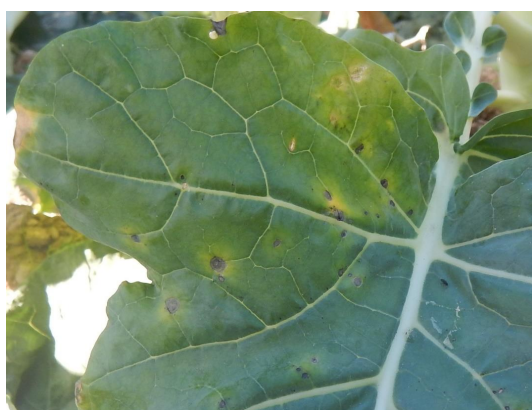


図1 葉の病徴

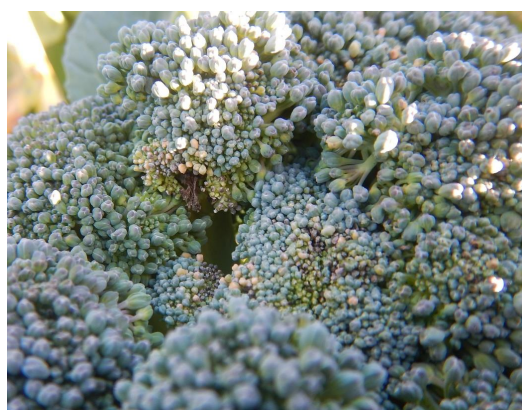


図2 花蕾の病徴

(\*1) *Alternaria brassicicola*

(\*2) *Alternaria brassicae*、*Alternaria japonica*、*Alternaria brassicicola*

### 3 防除対策

- (1) 育苗中は高温多湿を避け、発病株は早期に処分しましょう。
- (2) ブロッコリー黒すす病菌で一部系統の殺菌剤の感受性が低い菌株を確認しています。薬剤選択は指導機関に確認しましょう。
- (3) 薬剤が葉裏及び花蕾部分に十分付着するように散布しましょう。また同系統の殺菌剤を連用すると、感受性低下のリスクが高まるため、異なる系統の殺菌剤をローテーション散布しましょう。
- (4) 被害残渣は周辺ほ場や次作の伝染源となるため、作終了後は地表面に出ない程度に深く速やかにすき込みましょう。
- (5) 11月及び5月収穫の作型について、前作で本病による被害が大きかったほ場では作型の変更や作付け品目の変更を検討しましょう。